

スペイン、グラノラズ

Roger Pallarés Sastre

1. はじめに

このレポートの目的は、青少年国際平和未来会議として広島で開催された様々なイベントについて要約、評価すること、そして平和首長会議で活発に活動しているメンバーと、私の故郷グラノラズに対して、新たな取り組みを提案するため、広島で学んだ教訓をまとめることです。

2. 会議のイベントについてのフィードバック

日本で開催された前述の会議は、間違いなく良いものでした。組織も素晴らしく、会議でのイベントのほとんどが、とても興味深いものでした。そして、世界各地から来た参加者、特に日本のメンバーは、多様性に富んだ建設的な討議をおこなっていました。すべてのイベントの中で私が、これからも特に続けてほしいと思うのは、宮島訪問、伝統的な茶道体験、そして、とりわけホームステイです。私は、呉に2日間滞在する機会に恵まれ、戦艦大和や呉の港を訪れることができました。短期間ではありましたが、日本の文化や生活様式も体験できました。日本の豊かな生活は素晴らしく、素晴らしいおもてなしを受けたことは、決して忘れません。ですから、ホームステイはイベント・スケジュールのアクティビティとして今後もずっと残すよう提案します。

また、広島やその周辺のさまざまな場所に行ったこと、そしてグループで話し合っただけで決めた様々なレストランで夕食をとったことも、とても楽しかったです。私のグループでは、メンバーが1人ずつ、平和的、民主的方法でグループ・メンバーが満足するようなレストランを決めました。同様に、私は異なる文化を持つ人を混ぜてグループ分けをしたのも良いと思いました。私のグループは5ヶ国からのメンバーで構成されており、ロシア人のメンバーもいましたが、私が唯一のヨーロッパ人でした。そのような方法でグループ分けがされたことで、まったく異なる文化を持つメンバー同士で深い話もできました。そして、互いに、相手の気持ちを理解しようとする態度で接するようになりました。

また、この会議には改善の余地があると思います。特に、動的な面において会議の終りの2日間の討議をより良いものにできると思います。会議の議長およびその他のスタッフの努力と善意は賞賛すべきものではありませんが、討議の流れが時々だらだらとしたものになっていました。そして様々な議題がオーバーラップしているところも多々ありました。おそらく、平和という観点から、私達の類似点、そしてより重要となる相違点について探ることを目標として、最後のセッションでしたような最終宣言を話し合うことに焦点を当て、短くても集中して話し合いをするほうが良いのではないかと思います。この提案は、この会議での討論の妥当性、重要性を否定するものではありません。重要

な問題に焦点をあて、関連度の低い議題は避けることを狙った提案です。

3. 学んだ教訓とグラノラズへの提案

このセクションでは、会議で学んだ主な教訓について述べています。そして、その教訓をグラノラズ市の唯一の平和プロジェクトに適用させようと思います。

- 広島は、今まで、そしてこれからも常に平和の象徴です。私は、広島から戻った後、日々の暮らしの中で一番繰り返し言い続けていることがあります。それは、平和について考える必要がある人や平和に関して知的興味を持つ人は、少なくとも一生に一度、広島を訪れるべきだということです。平和記念公園、資料館、そして文化的、歴史的遺産の数々が、独特な雰囲気を作り出しており、広島を訪れると、「平和とは、より良い未来につながる道である」という信念が込められた平和のメッセージを世界中に伝え続けていこうと思うようになる場所です。
- 私が学んだ2番目の教訓は、日本人がどのように平和について取り組んでいるのか、そして広島のような歴史的遺産を維持していく義務を日本人がどのように考えているのかという事です。ラテン、地中海、ヨーロッパでの暮らしからすると、私達が歴史的遺産をどのように扱うかは、抗議という意味合いがより強く、内側から外側へ向かってコミュニケーションがとられているように思います。ですから、たとえば、カタルーニャ国民の日は、戦争での敗北を記念し、街頭でデモンストレーションをするのが一般的となっています。日本での記念は、外側から内側に向かっており、詩、歌、その他の文化的なデモンストレーションを通じて、非常に興味深い感情的な様相を作り上げていました。私は特に8月6日の記念日に驚かされました。カラフルな花が、みなさんの凜とした白色の服と相まって、独特な雰囲気を醸し出していました。
- 3つ目は、おそらく一番重要な教訓と言えます。根本的に異なる文化を持つ人々、時に紛争の原因となりうるイメージを持つ人々が相互に対話、理解、共感できるようになるには、対話と議論が大きな力を持っていると再認識することです。私達が広島で参加した会議では、対話と議論が中心となっていました。争っている者同士を結びつけるためには、文化的、歴史的、または政治的なプロセスの中核に対話と議論がなければなりません。会議では「多様な文化圏から来た参加者が、どのように平和を理解しているか」、「ある都市における戦争や紛争の遺産が、平和の推進につながったか」という数々の議題を掲げ、討論がおこなわれました。そしてヒロシマ・アピールについての討論はさらに熱を帯びました。特に、「民主主義体制のほうが平和につながりやすいか」について討論した際、参加者の中には非民主主義体制であっても、民主主義体制と同様の政治的安定をもたらすことができると主張する人もいました。しかし、権利を保障することが平和の推進には欠かせないというのが、みんなが感じているところでした。

このことから、若者の間で対話と議論を推進していかなければならないとグラノラズ

へは主に提案したいと思います。今の私達若者は、人格、政治的視点、社会的/文化的に確固としたものがなく、揺らぎやすいため、対立する意見、他の人の考え、文化的理解、政治的ビジョンを持つ人達と接する機会が必要です。若者が異なる見解に触れる機会が増えれば増えるほど、相反する意見に対応する際、より豊かで謙虚になれ、他人に共感できると思います。より寛容で民主的、平和な社会を作り出すには、そのような謙虚さと共感できる能力が必要です。それは、他者の考えをよく理解し受け入れなければならないからです。このプロジェクトでは、グラノラーズの各地区から様々な文化的背景やイデオロギー、経験を持つ学生を集めて同じテーブルにつかせ、議論、討論をする公開フォーラムをおこなうことを目的としています。一番の問題は、自由に会話してもらうか、特定の議題で会話してもらおうかということです。例えば、それぞれの参加者が、街にとって一番良いと思っていることは何か、そしてある指針を各自がどのように理解しているかなどです。グラノラーズの学生の文化的バックグラウンドは、間違いなく多様性に富んでいます。何十年も家族が街に住み続けてきたという人、カタルーニャやスペインの他の地区から家族が移り住んできたという人、他国から両親が移住してきたという人、そして自分がある時点で街に住み始めたという人がいます。このような豊かな文化遺産は、未知の部分もあり、紛争を引き起こす事も考えられます。よって、このプロジェクトの目的は、同じ都市に住む、多様性に富んだ若者達を結びつけて共通の経験をさせるためには、彼らをどのように融合させるかを特定することです。このプロジェクトをさらに進めた段階では、他の都市を含めて、文化的な対話をする事も考えられますが、広島での会議の最後の数日間でおこなったような方法を、さらに集中的に推し進め、共同宣言という形で共通の見解を導き出していく事も考えられます。討論する時、困難に遭遇した時、緊張状態に対応しなければならない時こそ、より良い経験となるのです。

4. グラノラーズおよび平和首長会議プログラムへの提案

前セクションで述べたように、この会議で得た主な教訓で、グラノラーズに適用できる事は、異なる環境、異なる文化的バックグラウンド、異なる精神構造を持つ人達が対話するという事です。

数年前、都市における多様性はあまりなく、出身地が同じ人が多く住んでいました。しかし、現在、グローバル化により、すべてが変わり、約 65,000 人が住むグラノラーズのような都市には、さまざまな環境からやってきた人が、多様性に富んだ形で平和に暮らしています。そのような状況であれば、10-12 人の小さいグループで、様々な文化的背景を持つ人々が会って、それぞれの価値や世界観、意見を伝えあう機会を持つことは容易です。そして、そのグループに、会話を円滑にするリーダー役をつけて、そこで得た教訓について最終的なメモランダムを作成するのです。そして、そのメモランダムは、後日、公式報道機関を通して市民全員に公開するのも良いかと思います。

平和首長会議プログラムについてですが、プロジェクト全体を定義づける最も重要な

ことの1つが、世界中の若者の声に耳を傾け重視することであると強調しておきます。これにより、核兵器の製造および使用をやめるよう、集団的に働きかけていくことの大切さを伝えられるのです。そのため、このプログラムが都市的性質を持っている事と、若者たちが持つ可能性が変化の触媒となりうる事を合わせた上で、私がこのプログラムに対して提案したいことは、よりアクティブに、そして活動家のような役割を持たせるということです。ロビー活動をしたり、地域および政府機関にもっと圧力をかけたりして、核廃絶アジェンダを推し進めていくのです。より政治的な見解をプログラムの各部門に適用させていくことで、公的機関に対する大きな圧力になり、より大きな変化をもたらすと私は思います。

5. 結論

このレポートの目的は、2017年8月に広島で開催された青少年国際平和未来会議の活動全体を要約、評価するものです。この点においては、運営組織とイベントにはほぼ満足していると述べました。そして、最後の2日間の討論については、議題が不十分だったり、オーバーラップしていたりする事があったので、改善の余地があると提案しました。2つ目の目的は、私の街、グラノラーズにおける平和推進に関する提案でした。それは、日本で私が経験したような対話、議論、共感の価値を示した提案です。様々な文化的環境やバックグラウンドを持つグラノラーズの学生達をつなぐことを目的としているのは、学生達が、他者に対して、より深く共感し謙虚さを持つよう、その多様性を認識しつつ共通の思い出を作ることで、将来、より平和で民主的な社会に貢献することを願うからです。